

## 二国間交流事業 共同研究報告書

平成 23 年 4 月 20 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

共同研究代表者所属・部局 早稲田大学・文学学術院

職・氏名 <sup>(ふりがな)</sup> 教授 嶋崎尚子 しまざきなおこ

1. 事業名 相手国 (英国) との共同研究 振興会対応機関 (BA)

2. 研究課題名 日本と南ウェールズにおける旧産炭地再生の比較歴史社会学

3. 全採用期間

平成 21 年 4 月 1 日 ~ 平成 23 年 3 月 31 日 (2 年        ヶ月)

4. 経費総額

(1) 本事業により執行した研究経費総額 2,000,000 円

初年度経費 1,000,000 円、 2年度経費 1,000,000 円、 3年度経費        円

(2) 本事業経費以外の国内における研究経費総額 1,100,000 円

## 5. 研究組織

### (1) 日本側参加者（代表者は除く）

氏名 <small>(ふりがな)</small>	所属・職名	研究協力テーマ
中澤 秀雄 <small>なかざわ ひでお</small>	中央大学・教授	旧産炭地の地域再生
玉野 和志 <small>たまの かずし</small>	首都大学東京・教授	組合・マネジメント
澤口 恵一 <small>さわぐち けいいち</small>	大正大学・准教授	組合・マネジメント
大國 充彦 <small>おおくに あつひこ</small>	札幌学院大学・教授	旧産炭地の地域再生
西城戸 誠 <small>にしきど まこと</small>	法政大学・准教授	炭鉱女性の社会運動
山本 薫子 <small>やまもと かおるこ</small>	首都大学東京・准教授	旧産炭地の地域再生
吉岡 宏高 <small>よしおか ひろたか</small>	札幌大学・特任教授	旧産炭地の地域再生
正岡 寛司 <small>まさおか かんじ</small>	早稲田大学・名誉教授	日本社会の産業構造転換
藤見 純子 <small>ふじみ すみこ</small>	大正大学・教授	炭鉱社会の家族と生活
木村 至聖 <small>きむら しせい</small>	京都大学・博士課程	旧産炭地の地域再生
井上 博登 <small>いのうえ ひろと</small>	早稲田大学・博士課程	炭鉱女性の社会運動

### (2) 相手国側研究代表者

所属・職名・氏名 Swansea University, Professor, Chris Williams

### (3) 相手国参加者（代表者は除く）

氏名	所属・職名（国名）	研究協力テーマ
Jane Elliott	Swansea University, Associate Professor	炭鉱女性の社会運動
Sian Williams	Swansea University, Librarian	旧産炭地の地域再生
Elisabeth Bennett	Swansea University, Archivist	旧産炭地の地域再生
Colin Trotman	Swansea University, Professor	組合・マネジメント

6. 研究実績概要（全期間を通じた研究の目的・研究計画の実施状況・成果等の概要を簡潔に記載してください。）

本研究プロジェクトは、日本（初発においてはとくに北海道空知地域）ならびに英国南ウェールズ地域の旧産炭地域を舞台にした比較歴史社会学研究である。

2009年度は、日英の協力関係および組織・段取りを構築することを獲得目標とし、相手国に自国の経験を紹介するための準備的調査を実施した。その成果を共有する機会として、下記のとおり両国でシンポジウムを開催し、次なる研究戦略を練った。

2009年度シンポジウムは以下のとおりである。

(1) 空知シンポジウム 2009

「日本とウェールズにおける炭鉱の記憶：地域再生へのアーカイブズと社会教育の役割」

2009年8月7日（金）・8日（土）

美唄アルテピアッツァ（7日）／岩見沢コミュニティホール（8日）

(2) Symposium in Wales 2009

“Collective Memories of Coal Mining in Japan and Wales: The Roles of Archives and Social Education towards Community Regeneration”

2009年9月10日（木）・11日（金）

Swansea University, Wales

2010年度には、その成果を夏と冬に日本、英国でシンポジウムを開催し共有した。さらに今後の比較研究として3つのメインテーマならびにサブテーマ3つを確定し、その研究方法を確認したうえで、共同研究の第二ステップを開始した。

2010年度シンポジウムは以下のとおりである。

(1) 早稲田シンポジウム 2010

「旧産炭地の現在：常磐・空知・ウェールズの比較から」

2010年7月10日（土） 早稲田大学

「日本とウェールズにおける社会教育と地域再生：旧産炭地の労働組合と女性たち」

2010年7月11日（日） 早稲田大学

(2) Symposium in Wales 2011

“Comparing Coalfields in Britain and Japan Symposium”

2011年3月9日（水）・10日（木）

Gregynog, University of Wales, Wales

本シンポジウムにもとづく研究成果は、別項記載のとおりである。